

2005年12月13日

報道関係者各位

東京大学大学院情報学環・学際情報学府  
総合分析情報学コース担当  
副学環長・教授 坂村 健

## ユビキタス情報社会に向け人材育成、 東京大学大学院情報学環・学際情報学府 「総合分析情報学コース」誕生

東京大学大学院情報学環・学際情報学府は、下記の通り、平成18年度より新しく「総合分析情報学コース」を設立いたします。本総合分析情報学コースは、主にコンピュータサイエンスやコンピュータネットワークの基礎を、例えば情報科学・工学分野や電気電子工学分野、通信工学分野における教育や業務を通じて習得した者を対象として、コンピュータサイエンスをベースとして大量のデジタル情報を分析する分析情報学の学際的な専門教育を実施します。具体的には、例えば、コンピュータネットワーク上の各種情報の断片の集合からコンピュータネットワークシステムの脆弱性や防御策を明らかにする手法、天候に依存せず広範囲の地上物体の縦横高さを数十cmの解像度で測定できる合成開口レーダー衛星等の観測衛星から得られる膨大なデジタル情報の解析などを実践します。こうした現実社会に深く関わる技術課題に興味を持ち、実社会においてCIO(Chief Information Officer)等として公共政策やビジネス展開を担える人材並びに、分析情報学及び計算機科学の研究者を育成します。

平成18年4月より本コースは設立される予定のため、本年度中に入学試験を実施いたします。受験者のための入試要項及び案内は本年11月初旬より、インターネット等を介して配布しております。また、本コースの入試説明会を12月14日にTRONSHOW 2006の中で開催いたします。なお、入試等に関する情報は、東京大学大学院情報学環・学際情報学府のWebページを参照してください。

報道関係者各位におかれましては、本コースの新設に関する周知にご協力いただくことをお願いするとともに、入試説明会に是非ともご参加くださるようお願い申し上げます。

【資料13】

記

コース名 総合分析情報学コース

修士課程 募集数： 約 20 名程度（社会人特別選考枠若干）  
入試要綱配布：平成 17 年 11 月 8 日より  
入試日程： 平成 18 年 1 月 14 日（筆記試験） 15 日（口述試験）

博士課程 募集数： 約 8 名程度  
入試要綱配布：平成 17 年 11 月 8 日より  
入試日程： 平成 18 年 2 月 11 日（口述試験）

第二回入試説明会

日時： 2005 年 12 月 14 日（水）15:00～16:00  
場所： 東京国際フォーラム（有楽町）地下 2 階 [ 展示ホール ]  
TRONSHOW2006 会場内シアター 1

問合先 東京大学大学院学際情報学府（坂村、越塚）  
電話：03-3493-1998  
URL：<http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/>

## 【資料13】

### 資料

東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻  
総合分析情報学コース概要

#### 1. 設立趣旨

近年、IT基盤の整備に伴い膨大で多様なデジタル情報が得られるようになり、広い視野と複数の角度から複眼的にこれらのデジタル情報を分析することが世界的に盛んに取り組まれている（分析情報学）。こうした分野は多岐にわたり、農学や水産学、環境学、資源学、社会学、考古学といった学問分野をはじめ、災害支援や遭難救助、社会安全保障、国土や社会基盤の管理保全といった国レベルの施策、更には情報セキュリティポリシーの策定やインターネット等のサイバー空間の管理といった分野へも及ぶ。このような情報を分析できる人材や、政府における施策や民間企業におけるビジネス展開に適用できる、新しい情報活用能力を持った人材を養成し、高水準の意思決定過程において活用できる人材を養成し、情報通信に関する社会基盤の普及と情報を獲得・流通する技術の進展を、国民生活の質の向上や経済活動の活性化、国民の安心・安全の実現につなげることが、現在の日本において強く求められている。

ところが、膨大な情報を分析し、それに基づいた判断を下して対応する人材の必要性が高いにも関わらず、これらの広い知見を必要とする、情報の統合・分析・判断、それに対応するための戦略立案といった、まさにミッション達成型の学際はいまだ体系化・学問化されておらず、属人的・経験知的なスキルに任されているのが現状である。特に日本においては、せつかくの進んだ情報技術を国家規模の災害対応や遭難救助等、国民の安全・安心等への対応に適用することは急務であり、そのための情報応用側の体系化・学問化、またそうした資質をもった専門家の育成を、情報通信技術の基礎的研究開発と並行して緊急に行うことが求められている。

そこで、東京大学は大学院学際情報学府に総合分析情報学コースを新規に設置し、多方面の知識に基づく高度な情報分析能力と情報活用能力を持ち、CIO（Chief Information Officer：最高情報責任者）として、政府における施策や民間企業におけるビジネス展開を担える人材を育成する。そのために、本コースでは、大量のデジタル情報を処理・分析・判断する分析情報学基礎の研究とともに、分析情報学に関する学際的専門教育を行う。

#### 2. 募集する学生

本コース修士課程に期待される入学者像としては、情報科学・工学分野や電気電子工学分野、通信工学分野の専門学部において、主にコンピュータサイエンスやコンピュータネットワークの基礎を習得した学生を想定している。また、既にこうした専門教育をうけ、当該分野における業務経験を積んだ社会人も想定している。

更に、博士課程は、分析情報学の知識基盤を習得した学生の中から、更に当該分野の研究者、または分析情報学分野においてリーダー的な役割を担うことを目指す人材を想定している。

## 【資料13】

### 3. 教育・研究内容

本コースにおける教育方針は、我が国の企業、自治体等、様々な組織におけるCIOとなりうる人材を育成することである。つまり、大量情報を処理し分析する資質を持ち、更に理工系の知識をベースとしつつ、社会的・文化的文脈の視点をもった人材である。

#### (1) 修士課程

修士課程で主に、高度なコンピュータサイエンスの習得を前提とし、その上で多様で膨大な情報の解析・統合・分析・評価、情報システムと社会制度の両面の総合的な設計、組織のCIOとして情報政策や情報技術戦略などを扱う教育を実施し、学際性・国際性を兼ね備えた応用能力の高い人材を輩出する。修了後の進路としては、災害や遭難などの緊急時に即応する必要がある行政分野や情報政策を担う政府、IT系企業をはじめとして、コンピュータサイエンスや分析情報学の研究者が期待される。

#### (2) 博士課程

博士課程では、コンピュータサイエンスと分析情報学の基礎の習得を前提として、分析情報学分野の更に高度な内容の教育とともに、本コースの教員とともに世界第一線の研究に加わり、研究者としての第一歩を踏み出す。

修了後の進路としては、分析情報学分野の研究者となり、主に大学や国立研究所、民間企業の基礎研究所等で活躍することを望んでいる。